



Tohoku University DRR Actions
Contributing to Global Disaster Resilience

議員定数のあり方について

拓殖大学政経学部 教授

東北大学公共政策大学院 非常勤講師

河村 和徳



地方議員に関する誤解

- 地方議員の定数を減らすべきという政治学者がいる
- 地方議員の数を減らすと行財政改革に大きく貢献する
- 地方議員の議員報酬は多すぎる
- 地方議員には年金がある
- 地方議員は職業である



地方議員の定数を減らすべきという政治学者がいる

- 少なくとも民主主義を研究している政治学者は、議員の数はできる限り減らすべきとは考えていない
- なぜ？
 - 議会住民の縮図。本来は直接参加、それが難しいので代表を選んでいる。



地方議員の数を減らすと行財政改革に大きく貢献する

- 貢献しない
- なぜ？
 - 地方交付税の算定根拠となっているから。



「議員の定数を減らすから報酬を増やす」

- 一度しかできない禁止手
 - 議員の定数をどこまで減らすのか、という問題は残る
 - 報酬を増やしたのに仕事量が変わらないなら、住民は納得しない
- 問題の先送り



定数のあり方と報酬のあり方を長期的には分けていく

- 引き算型の定数削減をやめ、積み上げ型の定数を考える
- 報酬はなり手不足の議論から：原価方式（働いている時間を可視化）



議員の実態を知ってもらう努力が欠けていたのでは？

- 大和町の事例

- 大和町では議会ゼミナールを実施、出席者は宮城大学の学生なども
⇒ 知らなかった議会の実像を知る。報酬増へ。

- ※ なぜ議会のみえる化が必要か

- ⇒ 浜松市の議論はメディアオープン



審議機能と代表機能

- 「地方議員の数は多すぎる」というが…
 - 地方議会には、議論する場（**常任委員会**）と議決する場（**本会議**）の2つの性格がある
- 議決する場は、住民の縮図であるべき
- 議論する場は、適切な会議体であるべき



所沢市や気仙沼市、浜松市での議論

- 会議体としての常任委員会
 - 常任委員会は幾つ？…自治体の特性によって規定される
 - 会議体は何人が適切？…経験則として6から10人
- そうすると、常任委員会の数×常任委員会の定数（+1（議長））というのが見えてくる。



常任委員会・委員会定数は幾つがいいか？

- 極めて人口少ないところは「なし」でも
 - 産業構造に依存
- 委員数は？
 - 兼任を認めるか？
 - 奇数である意味…可否同数における長の判断



地方議会のデジタル化とも
関連

三議長会で掲げられている問題意識



- 住民の関心の低下と無投票当選の増加への危機感
 - 議員のなり手不足と二元代表制の質の低下
- 多様な議会づくり
 - 多様性の欠如に課題
- 人口減少社会における議会の役割の再検討
 - 住民ニーズの多様化に加え、地域課題が複雑化している



2023年地方自治法の改正のポイント

- 地方議会の役割・地方議員の職務等を明確化

- 第89条の改正

普通地方公共団体に、その議事機関として、**当該普通地方公共団体の住民が選挙した議員をもつて組織される議会を置く。**

② **普通地方公共団体の議会は、この法律の定めるところにより当該普通地方公共団体の重要な意思決定に関する事件を議決し、並びにこの法律に定める検査及び調査その他の権限を行使する。**

③ 前項に規定する議会の権限の適切な行使に資するため、普通地方公共団体の議会の議員は、**住民の負託を受け、誠実にその職務を行わなければならない。**



明文化の意義

- 地方議会に対する曖昧な認識（戦後改革からの積み残し）
 - 議会とは何かを住民に理解してもらうことにつなげる
 - 議員の責任が重いことを認識してもらう
 - 議会に多様な人材が参画できるよう示す

⇒ 89条を意識して定数などを改めて考える



「定数を減らす」ことへの考え方

- たとえば、大阪市の定数削減の問題
 - 議員はムダかもしれないが...
 - でも減らすと声が届かなく確率は上がるし、主権者教育的にはマイナス
 - 選挙での当選ハードルは上がる
- 補完措置をとる必要がある...多様な声を拾う仕掛け（若者議会など）



議員定数条例に関する考え方

- 見直し条項を入れる≡一度決めたら、数回是不変えない
- 報酬や定数は、次回から適用するという発想が大事
- 議員の特別委員会だけで議論すべきか？（例：気仙沼市）



地域に対する考え方

- 地域から誰も代表が出ないのは困る？
 - 「地域」は、なにをもって地域とするか？ 字？ 大字？ 学校区？
- 地域の声は町内会の代表が代弁するという発想をすると、地域の代表でなくてもよいとなる。

合併自治体という十字架・・・気持ち多い



住民の縮図になるために

- 「アナログも、デジタルも」という発想
 - 住民懇談会は特定の方だけが集まる、若者や女性といった話を聞く対象を意図的に絞った場が必要？
- 出席と欠席の間をつくる
 - 福島民報「福島県議、市町村議の長期欠席・病欠 報酬支給対応分かれる 3市町減額、残りは満額」2024.6.21



政治参加の既往研究から導かれる議会制度の構造的課題

- 政治参加しやすい市民は政治的資源がある者
 - 時間がある者、資産がある者、そしてスキルがある者
- ⇒ 構造的に弱者は声を挙げにくい、また立候補コストを支払えない
- Exit, Voice & Loyalty
 - 愛着なき者は声をあげず、そこから退出する

多様な民意をどう議会が集約し意思決定に利用するか？